

令和2年度 第1回下野市教育委員会臨時会議事録

日 時 令和2年11月19日(木) 午後2時45分～午後3時45分

会 場 下野市立薬師寺小学校 体育館ミーティングルーム

出席委員 教 育 長 池澤 勤 職務代理者 永山 伸一
委 員 熊田 裕子 委 員 石嶋 和夫
委 員 佐間田 香

出席職員 教育次長 清水 光則
教育総務課長 近藤 善昭
学校教育課長 田澤 孝一
生涯学習文化課長 篠崎 正代
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 若林 毅
教育総務課長補佐 神田 晃

公開・非公開の別 公開

傍聴者 0 人

報道機関 0 人

議事録(概要)作成年月日 令和2年12月18日

討 議

「コロナ禍における教育について」

1. 開会
(池澤教育長) 2. 教育長挨拶
3. 議事録署名人の選任 永山委員及び熊田委員を指名
4. 討議
今回は「コロナ禍における教育について」の討議を行う。
はじめに、1.新型コロナウイルスに感染しないための新しい生活様式について、事務局に説明を求める。
- 【説明要旨】
(田澤学校教育課長) 「新型コロナウイルス感染症 学校における対策マニュアル（第3版）」に基づき、現在各学校で行われている感染対策の内容について説明を行う。
(1) 健康観察の徹底
(2) 日常の感染症対策の徹底
(3) 学校給食の実施
(4) 新型コロナウイルス感染症が発生した場合などの対応
(5) 新型コロナウイルスに関する正しい知識の指導
- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
(熊田委員) 以前、マニュアルのご説明をいただいたときに、心配だから学校に行かせないという例が増えるのではないかと、という懸念があったと思うが、実際そのような例はどれくらいあるのか。
- (田澤学校教育課長) 5月頃の、新型コロナウイルスに関する情報があまり出ていないときには、学校に行かせたくないというご家庭があった。情報が出てきてからは、0件ではないが少なくなっているが、市教育委員会で正式な数は把握できていない。
各学校で修学旅行を実施しており、当初は、数名の方が参加を見合わせたいということであったが、感染症対策について事前に保護者の方にご説明する段階では、欠席者が減ったという状況である。
理解はかなり進んでいて、感染症対策をとることでリスクが軽減できるということが浸透しており、心配をする方は減ってきている。
- (池澤教育長) 補足であるが、国分寺中学校の修学旅行については、新型コロナウイルスに対する不安等の理由により、参加率が約87%になってしまったため中止となり、日帰りで那須方面に行くことになった。
他に質疑等はあるか。
- (佐間田委員) 発熱等で具合が悪い子どもが別室で待機しているときに、保健室ではない会議室等に一人で置かれることがかわいそうなので、ナースコールのような遠隔で呼び出せるものがあつたら良いのではないかと。
- (池澤教育長) 設置している学校はあるのか。
(田澤学校教育課長) 市教育委員会では把握していない。これからタブレットを活用することは可能であると思う。
学校では、発熱等の症状がある場合は、保健室ではなく換気の良い別室で対応しており、そのために補助金でカーテン等を付けるようにしている。一人きりにしてしまうことがないように、養護教諭が巡回をしているが、完全に一人きりの時間がないようにするという事は難しいので、ICTを活用していきたい。

- (池澤教育長) 国分寺小学校については、性能の良い空気清浄機が入っている。他に質疑等はあるか。
- (永山委員) 空気清浄機の性能の基準などは、どこかで示されているのか。
- (田澤学校教育課長) 推奨されている性能の基準は、示されていない。国分寺小学校は、メーカーで謳っているウイルス除去率の高い物を選んだと聞いている。
- (永山委員) この対策マニュアルには、空気清浄機について書かれていないということではよろしいか。
- (田澤学校教育課長) そのとおりである。
- (池澤教育長) 続いて、2.G I G Aスクール構想における実践的なI C T活用の教育について、事務局に説明を求める。

【説明要旨】

- (田澤学校教育課長)
- ・今年4月・5月の休校期間中、けやきネットを通じて、学習教材の提供や先生方からのメッセージの配信を行った。学習プリントについては、家庭訪問時に先生を通じて配布していただき、登校日に持参するという対応を行った。現段階では、各家庭のネット環境によって学習に差が出てしまうが、今後G I G Aスクール構想によって児童生徒に一人一台タブレットが配布されることで、その差をなくすることができる。
 - ・今年度中にはタブレット端末が配布され、さらに来年度の夏休みまでには、貸し出し用W i - F i ルーターの整備を進める予定である。ネット環境が整うことで、学校からライブ配信を行うことが可能となり、先生方がメッセージを流したり、授業のポイントをまとめた動画を配信したりすることができるようになる。休校になったとしても、子どもたちとの繋がりを維持しながら学習を進められるということを想定して整備を進めている。
 - ・学校においても、子どもたちのタブレット画面をそのままテレビに映し出すことで、子どもたちの考え方を共有することが可能となるので、授業の中でもスムーズに使用できるよう、計画が進んでいる。
 - ・教科書にあるQRコードを読み込むことで、各教科書会社のコンテンツを使って子どもたちが個別に学習を進めることも可能である。
 - ・以前、永山委員にご指導いただいたドリルソフトもタブレット内に準備したので、学校での学習はもちろん、タブレットを家庭に持ち帰り、家庭学習に活用することも可能である。
 - ・市文化財課の、東の飛鳥のVR動画についても、自分のタブレットを使って見るようになるため、使う範囲が広がる。
- (佐間田委員) 出席停止の子どもに対するフォローはどのように行うのか。
- (田澤学校教育課長) 現在も、濃厚接触者に指定されて出席停止になっている子どもがいるが、電話連絡等で学習内容について伝えてプリント学習を行っていただき、ポストを介して提出を行う等、なるべく遅れが出ないように対応をお願いしている。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。
- (永山委員) G I G Aスクール構想については、ハード面が非常に充実するということで、大いに期待している。教材についても充実してきているのが分かったが、これからさらに充実を図っていただきたい。

ICT活用については、3つの利用メリットがあると考えている。1つ目は、意欲をもって学習ができる子どもが、さらに先の学習を進めることができること。2つ目は、不登校の子どもが、教室にいるのと同じような学習ができること。3つ目は補習機能で、もう一度分からないところに戻って学習することが可能だということである。つまり子どもは、意欲が弱い場合が多いと思うので、サポートしてあげる大人が必要である。これを、お忙しい学校の先生方に100%任せることは難しいと思う。学校運営協議会があるので、これからぜひ、学習をサポートしてくれるボランティアの方を学校に導入し、学習を見守る形で、補習教材の活用を考えていただきたい。ICTが人の代わりになることはないと思うので、新しい人材の工夫をお願いしたい。

(池澤教育長)

続いて、3.コロナ禍において提起されている人権問題について、及び、4.今後留意しなければならない新型コロナウイルス感染症対策における課題について、説明を求める。

【説明要旨】

(田澤学校教育課長)

3. 市内全教職員および児童生徒に、文部科学省から発出された、人権に配慮するようという要請の通知を配布し、新型コロナウイルスに感染した方への偏見・差別等がないように指導を行っている。下野市では、教職員・児童生徒に感染者が発生した場合でも、校名は発表しない方針で動いている。これまでの教育の中で、人権に対する配慮を徹底するようお願いしているが、今後、発症者が出た場合、学校と保護者と皆さんで考えていただかなくてはならないことである。
4. これまで新しい生活様式を行ってきているが、国が求めている教育は、「対話的で深い学び」である。友達同士の交流については、今までどおりとはいかない。学校にはかなり工夫をして実施していただいているが、今後さらに深めていくためには、試行錯誤していく必要があり、教育委員会としても思案している状況である。

(池澤教育長)

補足として説明させていただくが、「校名公表自治体任せ」という新聞記事に、「県教育委員会は今後も非公表の対応を変える考えはなく、『校内でクラスターが発生した場合など、状況によっては公表を検討する余地がある。』」という見解が載っている。市新型コロナウイルス対策本部も、個人情報であるので、個人の了解が得られるか得られないかが公表の判断基準となるという考えである。

下野市教育委員会は本日その方針について初めて協議を行うが、県教育委員会のような方針で進めたいと考えているが、いかがか。

(永山委員)

県教育委員会と同じ方針で良いと思う。市内に県立高校もあるので、そちらと異なる対応をすると分りにくい。

人権に配慮するという点についても、圧倒的多数の人が人権に配慮していない動きをするので、長い目で見れば人権感覚を磨いていくことは大切であるが、現に我々がいる社会は、人権に配慮していない言動をし

ている方が多いので、校名の公表をすることは、非常に危険な話である。

(池澤教育長)

永山委員の意見と全く同感である。風評被害が怖いからという理由で校名を公表することは、人権の尊重の観点から、罹患した方の考えを尊重すべきである。下野市教育員会も、県教育委員会の考えのとおり対応するという事によろしいか。

また、新型コロナについて様々な問題が発生した場合、定例校長会のほか、臨時校長会を適宜実施し、拡大防止策についての協議や市内学校間の情報交換等を行っていくということによろしいか。

(全委員承認)

(池澤教育長)

では、教育委員の皆様にご本日の感想を伺いたいと思う。

(石嶋委員)

何が科学的かということは、難しいところである。科学的な中に感情論的な発想をする人もいる。学校あるいは教育現場としては、弱い立場の人側に立って、そこにある危機をどう乗り越えるかを考える必要がある。独り善がりにならず皆で話し合いながら、一歩ずつ進んでいくことができれば良いと感じた。

(永山委員)

震災のときも、今回の新型コロナウイルスの拡大もそうであるが、私たちの感性が試される時であると思う。教育現場にいる私たちとすれば、子どもたちがこのような状況の中だからこそ学んでいくことも多いと思う。より良い明日が築ける、そして、より良い市民が育つような、一つの試される機会として、人権を考えなければならない。科学的が主観的になることもあるので、多角的に色々な立場のことを考える面を養い、そのような子どもたちを育てていくことが一番大事である。

(熊田委員)

学校が機能して、子どもたちが集団で学べることは本当にありがたい。手洗い・うがい・消毒を繰り返して、時を待つしかないが、先生方は、子どもたちをお預かりしている身として大変だと思う。学校と教育委員会と自治体で一丸となって対応していくしかない。

休校の時、先生方の工夫は大変ありがたかったが、今後G I G Aスクールになっていくと、Z o o mで生の授業ができることがとても良いと思った。

永山委員のおっしゃるとおり試される時期でもあり、逆に言えばピンチはチャンスで、創意工夫できる時期であるとも思う。

(佐間田委員)

10月頃、子どもが学校から帰ってきて最初に話した内容が、今日は歌が歌えたということで、当たり前のことできないことがつらいのだろうなと思った。楽しいかどうかを聞いてみると、「すごく楽しいかどうかと言われると日々の日常があるだけ」ということであつた。子どもなので、毎日楽しみがないと将来が見えないと思うので、どこかに楽しみを見つけられる学校であつてほしいと思う。

(池澤教育長)

今回は、第8回教育委員会定例会を11月20日に開催する予定である。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後3時45分閉会。